



平成28年4月28日

各 位

会 社 名 京 福 電 気 鉄 道 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 岡 本 光 司
(コード番号9049 東証第2部)
問 合 せ 先 取 締 役 管 理 部 長 長 尾 拓 昭
(TEL 075-841-9385)

中期経営計画の策定に関するお知らせ

京福グループでは、新たな経営理念のもと、2016年度(平成28年度)～2018年度(平成30年度)の3ヶ年における中期経営計画を策定いたしましたので、お知らせいたします。

・京福グループの経営理念と中期経営計画(2016年度～2018年度)・・・【別紙】

以上

京福グループの経営理念と 中期経営計画（2016年度～2018年度）

2016年（平成28年）4月28日

京福電気鉄道株式会社

目次

1. 京福グループの新たな経営理念と中期経営計画の策定にあたって	2
2. 京福グループの新たな経営理念・経営姿勢・行動憲章・経営ビジョン	3
3. 京福グループの経営状況	5
4. 経営の基本方針	6
5. 主な事業戦略	
(1) 「沿線深耕」を通じたエリア戦略	
京都地区① 交通結節の充実による利用者の拡大	7
京都地区② 地域ブランドの構築	8
京都地区③ 鉄道・バスのグループ展開によるシナジー創出	9
福井地区① 京福バスを核としたバス・タクシーによる交通インフラのシェア拡大	10
福井地区② 福井中心市街地活性化に伴う生活路線としての役割強化	11
(2) 沿線のまちづくり	
① 嵐山駅施設の次なるリニューアル計画の策定	12
② 保有資産の有効活用によるまちづくり	13
(3) 「安全・安心」への継続投資	14
6. 投資・財務戦略と定量目標	
(1) 投資・財務戦略	15
(2) 定量目標	15

1. 京福グループの新たな経営理念と中期経営計画の策定にあたって

京福グループの経営は、1970年代後半から、モータリゼーションの進展による鉄道・バス事業の輸送人員減少、有利子負債の増加などで悪化の一途を辿り、1998年度（平成10年度）末には、京福電気鉄道(株)の純資産が著しく減少し、危機的状況に陥りました。

この経営危機に対し当社グループは、事業再編・経営資源の集中による財務体質の改善、事業収益の拡大など、グループ一体の取り組みでこれを乗り越え、2011年（平成23年）6月には、28年ぶりに復配を実現するなど、会社再建に一定の目途が立ち、新たな「成長ステージ」を目指す段階を迎えました。

私たちはこれを機に、グループの「基本的な考え方」「心のよりどころ」を定めた「経営理念」等を刷新し、中期経営計画の概要とともに皆さまにお知らせします。

今後とも私たちは、中期経営計画を確実に推進しつつ、株主さま、お客さま、沿線の皆さま、関係官庁など、当社グループを取り巻く人々との積極的な協働により、地域社会に貢献し、地域社会の活性化とともに、私たち自身も成長していきます。

2. 京福グループの新たな経営理念・経営姿勢・行動憲章・経営ビジョン

京福グループは、新たな「成長ステージ」を目指すため、「経営理念」・「経営姿勢」・「行動憲章」・「経営ビジョン」をとりまとめました。
役職員・スタッフ一同、これらを常に心にとどめ、実践していきます。

経営理念

京福グループは、安全・安心をブランドの礎とし、人と社会に貢献します。

「経営理念」は、私たち京福グループの「心のよりどころ」です。

私たちは前身の京都電燈株式会社時代から、京都・福井を事業基盤に、地域で暮らす人々、働き学ぶ人々、訪れる人々に、様々なサービスを提供してきました。

私たちはこれからも、「安全・安心」を礎に、グループを取り巻く人々との信頼・連携・協働を通じ、人と社会に貢献し、成長していきます。

経営姿勢

私たちは、「経営理念」を実現し、
愛され、なくてはならない企業となることを誓います。

1. 安全・安心・感動を基礎に、社会と一体となって歩みます。
2. 進取・挑戦の歩みを止めず、日々進化し続けます。
3. 人と自然を敬愛します。

「経営姿勢」は、私たちが「経営理念」に沿って経営の意思決定を行い、事業を推進する上での価値観です。

行動憲章

1. 私たちは、人々に安全・安心と笑顔を提供します。
2. 私たちは、地域を学び、地域と歩み、地域のために尽くします。
3. 私たちは、ルールを守り、すべてのことに迅速に取り組みます。
4. 私たちは、人権を尊重し、人と地球に優しい事業を行います。
5. 私たちは、学び、育て、日々新鮮な気持ちで成長します。

「行動憲章」は、「経営理念」を役職員・スタッフ一同の日常の行動で実現するための基本方針です。

経営ビジョン

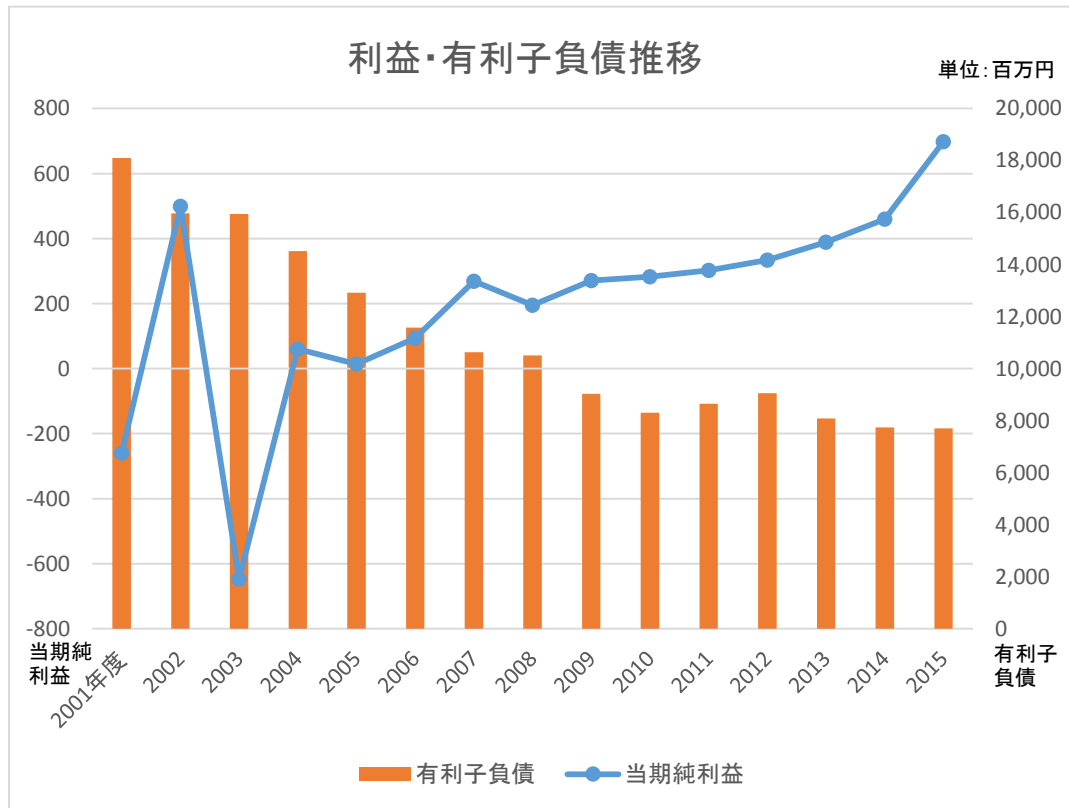
＜ 沿線深耕 ～私たちのまちをさらに楽しくにぎやかに～ ＞

1. 沿線地域で住む人・働く人・学ぶ人・楽しむ人を増やしていくための、地域ブランドの創出と発信。
2. エリア屈指の「なくてはならない交通事業」への成長。
3. 住んでよかった・来てよかったと感じていただける沿線づくり。

「経営ビジョン」は、「経営理念」を実現する道筋であり、「中期経営計画」の基本コンセプトです。

3. 京福グループの経営状況

京福グループは、1998年度（平成10年度）末に直面した経営危機以降、会社再建に向け、グループ一体で様々な取り組みを行ってきました。その結果、復配実現など会社再建に一定の目途をつけることができ、今後は新たな「成長ステージ」を目指します。



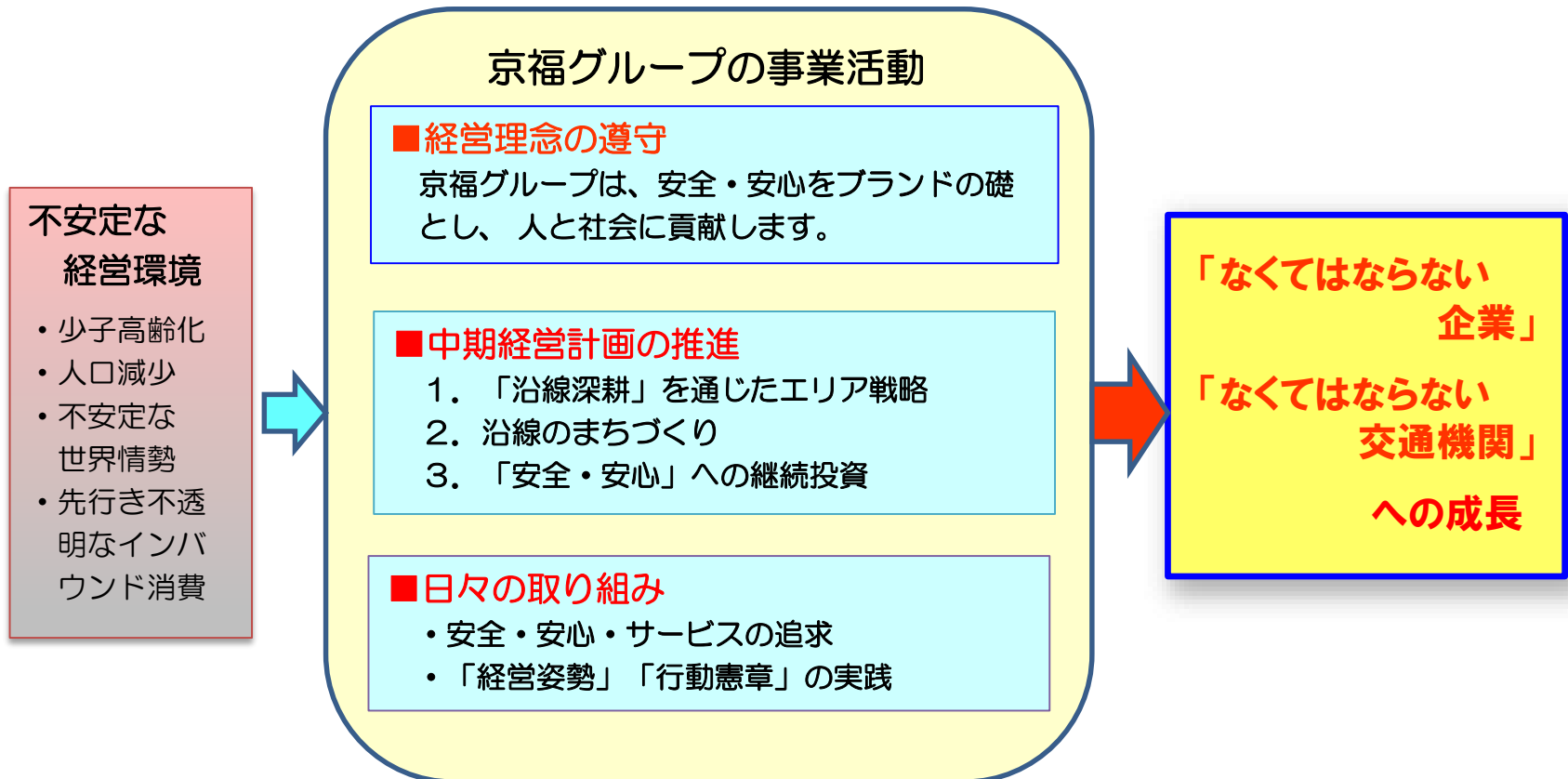
<主な経営再建施策>

- 1) 福井地区交通事業の再編
 - ・バス事業分社、京福バス(株)誕生
 - ・越前本線・三国芦原線営業譲渡
- 2) 京都地区交通事業の再編
 - ・叡山電鉄(株)株式売却
 - ・嵐山線への経営資源の集中
- 3) 不採算事業・不要資産の整理

4. 経営の基本方針

京福グループは経営ビジョンの中心に「沿線深耕」を据え、新たな「成長ステージ」を目指します。

「沿線深耕」とは、沿線の地域ブランドの創出と発信、さらにはエリア屈指の「なくてはならない交通機関」への成長に向け、グループを取り巻く人々と連携・協働して展開する諸取り組みです。



5. 主な事業戦略 (1)「沿線深耕」を通じたエリア戦略

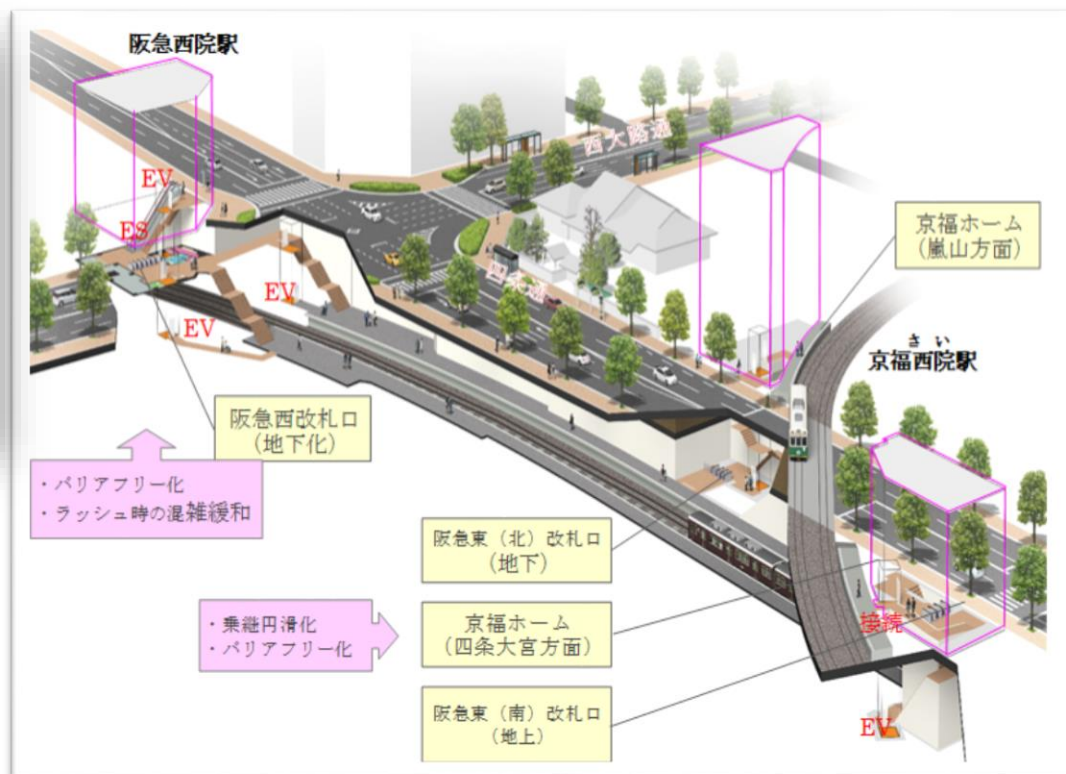
京都地区① 交通結節の充実による利用者の拡大

嵐山線では、2016年（平成28年）4月1日に北野線新駅「撮影所前」が開業し、JR山陰本線（嵯峨野線）との交通結節が向上しました。

さらに、西院駅と阪急京都線西院駅との結節改善・バリアフリー化が2017年（平成29年）春に実現、京都市西郊エリアの玄関口の役割を強化、利用者の拡大を図ります。



開業した「撮影所前駅」は
JR太秦駅から徒歩約3分



西院駅結節改善・バリアフリー事業イメージ図

5. 主な事業戦略 (1)「沿線深耕」を通じたエリア戦略 京都地区② 地域ブランドの構築

沿線の地域ブランドをさらに高め、沿線地域を楽しく活力あるものとし、観光客だけではなく、沿線居住者や利用客を増やしていく取り組み「沿線深耕」を、沿線の皆さまとの協働で推進していきます。

<沿線深耕の主な取り組み>

- 1：「一生涯嵐電ファン」の創出
 - ・西院車庫での校外学習「嵐電教室」開催
- 2：嵐電沿線を「見つける・訪ねる・遊ぶ」
 - ・商工業など新たな切り口での沿線発信
 - ・街歩きマップによる地域紹介
 - ・居住者増加に向けた不動産等新たな事業
3. 嵐電沿線を「知る・知っていただく」
 - ・新たな観光スポットの創出



2015年（平成27年）11月の第1回「嵐電教室」では、沿線の朱雀第七小学校の3年生が、安全を守る仕事や、公共交通機関の利用マナーなどを学びました。

5. 主な事業戦略 (1)「沿線深耕」を通じたエリア戦略

京都地区③ 鉄道・バスのグループ展開によるシナジー創出

嵯峨・嵐山地区や鞍馬・貴船・大原地区などを基盤にもつ京都バスは、2015年（平成27年）11月からICカードが利用可能となりました。また京都市バスとの運賃均一化区間も拡大しています。

今後も、嵐電や京都市交通局との効率的な乗り継ぎなど連携強化を図り、お客さまにとってわかりやすく利便性を高める「シームレス化」を推進し、シナジー効果の発揮を目指します。



- 嵐山・嵯峨野フリーきっぷ
嵐電全線と京都バス嵐山方面系統（清滝・大覚寺・苔寺・鈴虫寺方面）が1日乗り降り自由。



- 市バス・京都バス一日乗車券カード
京都バス・京都市バスの均一運賃区間内が1日乗り降り自由。

5. 主な事業戦略 (1)「沿線深耕」を通じたエリア戦略

福井地区① 京福バスを核としたバス・タクシーによる交通インフラのシェア拡大

京福グループは福井地区で、京福バスを含む4社のバス・タクシー会社が、地域の交通インフラを担っています。

今後、路線バス事業では、グループのスケールメリットを活用し、バスとタクシーが連携した「デマンド輸送」など、新たな交通サービスの提供を図ります。

貸切バス事業では、訪日観光客の北陸新幹線沿線や地方への移行を捉え、グループ全体で車両増備、営業・配車・運行管理の一元化を実施、地域での輸送シェアを高めます。



予約制デマンドタクシー「ほやほや号」開業式（2011年（平成23年））。都市中心部から地域の拠点商業施設までを路線バス、以降の地域内を予約制タクシーで輸送、地域住民の利便性を高めながら、効率的な運行を実現。

5. 主な事業戦略 (1)「沿線深耕」を通じたエリア戦略 福井地区② 福井中心市街地活性化に伴う生活路線としての役割強化

京福バスは、2016年（平成28年）3月に完成したJR福井駅西口の新たなバスターミナルに乗入れを開始、JR、福井鉄道、えちぜん鉄道との乗継利便性が向上しました。

中心市街地活性化において、新たな交通手段の提案や路線・ダイヤ見直しなど、地域密着の公共交通としての役割をさらに強化します。



5. 主な事業戦略 (2)沿線のまちづくり

①嵐山駅施設の次なるリニューアル計画の策定

嵐山の中心エリアにある嵐山駅ビル（嵐山駅はんなり・ほっこりスクエア）には、インバウンドを含め国内外から多くのお客さまが訪れています。

地域ブランド向上に直結する高価値・高品質な施設、さらに快適で便利にご利用いただける施設を目指し、次なるリニューアル計画を策定します。



5. 主な事業戦略 (2)沿線のまちづくり

②保有資産の有効活用によるまちづくり

京都地区では、2017（平成29年）3月の供用開始に向け、ファミリー用・単身者用両タイプを併せ持つ駅隣接型の店舗付き賃貸マンション「新京福西院ビル（仮称）」を建設します。

福井地区では、福井市街地のえちぜん鉄道福井口駅周辺のグループ保有土地を有効活用すべく、利用計画を策定していきます。



建設が進む「新京福西院ビル（仮称）」と
嵐電西院駅（嵐山方面行きのりば）



「新京福西院ビル（仮称）」完成予想イメージ

5. 主な事業戦略 (3)「安全・安心」への継続投資

京福グループのブランドの源泉である「安全・安心」のための投資を計画的・継続的に行います。特に嵐山線では、第三者機関（土木は「日本鉄道施設協会」、電気は「日本鉄道電気技術協会」、車両は「日本鉄道車両機械技術協会」）による現有設備の評価結果に基づき、「総合安全対策計画」を策定し、一部の補助金制度を活用しながら安全対策を進めています。

なお、本中期経営計画期間においては、嵐山線のPTC（列車運行管理システム）・CTC（列車集中制御装置）の更新、福井地区でのバス車両の計画的更新などを主な投資計画としています。

嵐山本線 天神川桥梁の耐震補強工事



(着工前)



(竣工後)

6. 投資・財務戦略と定量目標

投資・財務戦略を通して事業戦略を着実に実施することで、中長期的な定量目標を達成し、更なる利益の上積みを目指します。

(1)投資・財務戦略

- ◎年間2円配当を軸に安定的な配当を実施
- ◎戦略投資の強化と安全投資の継続実施

(2)定量目標

2018年度（平成30年度）までの目標

- 連結営業収益・・・・・・・・・・・・・・・・・・120億円以上
- 連結営業利益率・・・・・・・・・・・・・・・・・・5.0%以上
- 連結有利子負債／EBITDA倍率・・・・・・・・・・5.0倍以下

※ 連結有利子負債／EBITDA倍率とは、有利子負債がEBITDA（金利・税金・減価償却費等を差し引く前のキャッシュベースでの利益）の何倍であることを示すもので、財務の健全性を評価する指標です。
連結有利子負債／EBITDA倍率＝（社債＋借入金）÷（営業利益＋減価償却費）